おひざのうえで

（副園長の子育ておうえん通信）（２０２１年１１月）

せんりひじり幼稚園
副園長　安達かえで

「　手先を使うことの重要性　」

　つくろうデイは　お疲れ様でした。
　ICT で何でもできる時代。指先で物が作れる時代。データーを飛ばして3D プリンターで完成度の高いものができてしまう時代ですが、手先を使って物をつくり出す作業の面白さを味わっていただけたでしょうか。手先を使ってモノづくりをすることが、脳を刺激します。やわらかい・固い・つるつる・べたべた・ざらざら・折れやすい・折れにくい・くっつきやすい・くっつきにくい・切りやすい・切りにくい・・・などなど、素材の持つ特徴が手の感触を通して脳に伝わります。そしてどのように操作すればうまく扱えるかを学習していきます。手を使うことの重要性がわかりますが、何よりも人間の持つ本能ですから、楽しいのでしょうね。

　出来上がった作品を手にするみなさんの表情が、嬉しそうでした。木工コーナーでは、お気に入りのおもちゃを入れる棚や人形のベッドなど、味のある作品を抱えて帰るお父さんと子どもの表情が満足げでした。素敵なリースを片手に「子どもそっちのけで夢中になってしまって・・・」と、はにかんだ表情で子どもの作品と自分の作品を見せてくれたかわいいお母さんもいて、ほほえましい光景でした。
　材料集めにご協力いただきありがとうございました。無から有は生まれません。多くの様々な種類の材料があることでイメージを広げて、見通しをもってモノ作りができます。たとえ作品にならなくても、様々な素材に触れることで、その素材が持つ特徴を知ることができ、それも一つの貴重な経験になります。これがきっかけで、苦手なご家庭でも、親子でモノづくりができるようになるといいなと思っています。

　さて、年少の保育室には、日常の生活や遊びの中で、造形活動につながる様子をドキュメンテーションで紹介させていただきました。3 歳児は、作っては遊び、そして壊れ、また作る・・・。を繰り返します。作品を作り上げるというよりも、その作っては壊す作業の中で、物の特徴をつかみ、操作することがうまくなっていきます。いきなり上手に作れる子はいません。このような作業を多く経験した子どもが自分のイメージしたものをうまく作れるようになります。大人が見ると何を作っているかわからないような物も、子どもにとっては試行錯誤の後の大事なものだったりします。その努力の跡やプロセスを共感していただきたくて、ドキュメンテーションを作成していますが、わかりにくいところはなかったですか？

　年中組は、様々な素材を組み合わせて、目的（〇〇を作りたい）をもって作ることができるようになります。作りたいものをイメージしたり、素材を選んで作りたいものに近づけていった様

子が作品から見て取ることができます。保育室内は、恐竜や生き物の世界を表現したり、思わず、入ってみたくなるような、素敵なおうちが並んでいたと思います。作ることが楽しいと感じながら作っている様子が想像できたかと思います。

　年長組は、現在お店屋さんプロジェクトの活動の真っただ中です。「本物のように作りたい」というこだわりが花開く時期ですので、驚くような食品やグッズやお店の設えを見ていただけたかと思います。実は製作に至るまで、話し合いを重ねて、どんなお店にしたいのか、何が必要か、何を使って作るのかを調整しながら進めてきています。作るものや材料や作り方まで保育者が決めたものを作るだけでは、育たないものがあります。子どもが自ら主体的に考え、友達と協力しながら作るには相当の時間を費やすことになりますが、そこで育つ力は、時間に代えがたいほど素晴らしく、今後、生きていくうえで必要な力になっていきます。

　どのような力を育てたいのかによって、教育の仕方は変わりますが、今後、予測不可能な時代に突入し、間違いなく、課題解決力や自ら考える力、試行錯誤する力や、表現する力が重要になってくると思います。そのために、せんりひじり幼稚園では、3歳４歳と、その段階にあった活動をその時期に十分にさせてあげることで力を積み上げ、５歳児につなげていきます。幼児期の最後には、友達と共にプロジェクト活動を成し遂げていく総合的な力が育っていくことを願っています。